

届出伝染病の種類(70種)

番号	届出伝染病の種類	対 象 家 畜	症 状 等
1	ブルータング	牛、水牛、鹿、めん羊、山羊	吸血昆虫が媒介し、ウイルスにより発熱、異常産、口腔粘膜の潰瘍等を起こす。羊ではチアノーゼにより舌が青くなる。
2	アカバネ病	牛、水牛、めん羊、山羊	吸血昆虫により感染し、異常産を起こす。子牛は体形異常等を呈する場合がある。生後に感染し、脳脊髄炎を起こすこともある。
3	悪性カタル熱	牛、水牛、鹿、めん羊	ウイルスにより発熱、角膜の混濁、神経症状を呈し、致死的経過をたどる。
4	チュウザン病	牛、水牛、山羊	吸血昆虫により感染し、異常産(大腦・小脳欠損等)を起こす。
5	牛ウイルス性下痢 (旧名・牛ウイルス性下痢・粘膜病)	牛、水牛	ウイルスにより発熱、流涎、下痢、潰瘍等を起こす。
6	牛伝染性鼻気管炎 (I B R)	牛、水牛	ウイルスによる牛の急性熱性伝染病。気管支炎、流産、亀頭包皮炎等を起こす。
7	牛伝染性リンパ腫 (旧名・牛白血病)	牛、水牛	ウイルスによりリンパ系組織が腫瘍化し、免疫不全を起こす。
8	アイノウイルス感染症	牛、水牛	吸血昆虫が媒介する。妊娠牛がウイルスに感染した場合、流産や子牛の小脳形成不全、四肢関節異常をもたらす。
9	イバラキ病	牛、水牛	吸血昆虫が媒介し、ウイルスにより発熱、呼吸困難を起こす。症状が進むと嚥下障害、咽喉頭麻痺を起こす。
10	牛丘疹性口内炎	牛、水牛	ウイルスにより口腔粘膜に丘疹を形成する。子牛での発病率が高い。
11	牛流行熱	牛、水牛	吸血昆虫が媒介する、ウイルスによる牛の急性熱性伝染病。発熱、気管支炎を起こし、流産を起こすこともある。
12	類鼻疽	牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし	細菌による肺炎、乳房炎、神経症状等を呈する。(人獣共通感染症)
13	破傷風	牛、水牛、鹿、馬	土壌菌による人獣共通伝染病。発症すると筋肉の硬直、痙攣を起こし呼吸困難により死亡する。(人獣共通感染症)
14	気腫疽	牛、水牛、鹿、めん羊、山羊、豚、いのしし	土壌菌による家畜の急性敗血性伝染病。胸部、臀部、四肢に気腫・腫瘤を呈する。
15	レプトスピラ症 ※1	牛、水牛、鹿、豚、いのしし、犬	感染すると腎臓が主に侵され、血色素尿、黄疸を起こす。(人獣共通感染症)
16	サルモネラ症 ※2	牛、水牛、鹿、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、七面鳥	症状は下痢、流産、脳炎等種々である。(人獣共通感染症)
17	牛カンピロバクター症 (ビブリオ病)	牛、水牛	主として交尾により細菌が感染し、流・早産を起こすことがある。
18	トリパノソーマ症	牛、水牛、馬	原虫が血流中で増殖し、発熱・貧血を主徴とする症状を起こす。馬の本病としてズルラ病・媾疫等がある。
19	トリコモナス症	牛、水牛	主として交尾により原虫が感染し、子宮内膜炎等を起こし早期流産や不妊症となる。
20	ネオスポラ症	牛、水牛	原虫感染により、妊娠牛に流・早・死産を起こす。
21	牛バエ幼虫症	牛、水牛	ウシバエ、キスジウシバエの幼虫による疾病。幼虫は体内移行し、皮下に腫瘤を形成する。
22	ニパウイルス感染症	馬、豚、いのしし	発熱を伴い、重度の呼吸器症状や定期的な痙攣を起こす。(人獣共通感染症)
23	馬インフルエンザ	馬	ウイルスによる馬の呼吸器病。発熱、鼻汁漏出、流涙が特徴
24	馬ウイルス性動脈炎	馬	ウイルスにより小動脈の変性・壊死が起こる全身感染症。生殖器、呼吸器を介し、接触伝播する。
25	馬鼻肺炎	馬	ウイルスにより若馬は上部気道炎を、妊娠馬は流・死産を起こす。
26	ヘンドラウイルス感染症 (旧名・馬モルビリウイルス肺炎)	馬	ウイルスにより発熱、呼吸障害が起きる。
27	馬痘	馬	ウイルスにより口唇内側、歯ぐき、つなぎ等に水泡、膿疱等が生じる。
28	野兔病	馬、めん羊、豚、いのしし、うさぎ	細菌により、発熱、下痢、敗血症等を起こす。めん羊では死亡率が高い。(人獣共通感染症)
29	馬伝染性子宮炎	馬	細菌により、子宮内膜炎等を発症し、陰門部から滲出物を流出する。受胎率の低下が顕著

30	馬パラチフス	馬	流産、精巣炎、関節炎等を起こす。子馬では予後不良となる。
31	仮性 ^そ 皮疽	馬	真菌の一種であるヒストプラズマにより、皮下リンパ節等が化膿性潰瘍となる。別名伝播性リンパ管炎
32	伝染性 ^{のうほう} 膿疱性皮膚炎	鹿、めん羊、山羊	ウイルスにより口唇部、乳房等に丘疹、膿瘍、潰瘍を形成する。
33	ナイロビ羊病	めん羊、山羊	ウイルスによる急性熱性疾患で発熱、出血性腸炎、流産等を起こす伝染病
34	羊痘	めん羊	ウイルスによりめん羊が全身性発疹を呈する伝染病。致死率が高い。
35	マエディ・ビスナ	めん羊	ウイルスによりめん羊が慢性進行性肺炎や歩行異常を起こす。
36	伝染性無乳症	めん羊、山羊	マイコプラズマにより発熱、乳房炎、関節炎、角膜炎を起こす。
37	流行性羊流産	めん羊	クラミジア(細菌とウイルスの中間生物)感染により、胎盤炎を起こし、流死産あるいは虚弱産子の分娩が見られる。
38	トキソプラズマ症	めん羊、山羊、豚、いのしし	原虫のオーシストが感染して起こる伝染病。時に集団発生をみる。流・死産、虚弱産子などの繁殖障害として重要である。(人獣共通感染症)
39	疥癬 ^{かゆいせん}	めん羊	ダニの寄生により激しい痒覚が起こり、貧血、浮腫 ^{しゅ} を呈する。
40	山羊痘	山羊	羊痘ウイルスと遺伝的に近縁で紅斑発疹を特徴とする。致死率の高い急性伝染病。昆虫などにより媒介される。
41	山羊関節炎・脳炎	山羊	ウイルスにより脳炎症状及び、関節炎症状の2つの症候群がみられる。
42	山羊伝染性胸膜肺炎	山羊	マイコプラズマにより重篤な線維索性胸膜肺炎を起こす。死亡率が高い。
43	オーエスキー病	豚、いのしし	ウイルスにより死流産等の異常産、子豚の神経症状等が見られ、経過が早く致死率が高い。豚以外の家畜では搔痒症を呈し致死経過をとる。
44	伝染性胃腸炎	豚、いのしし	ウイルスによる下痢を主徴とする急性伝染病で、伝播が早く発病率が高い。年齢に無関係に感染し、発生は冬に多くみられる。哺乳豚の死亡率はほぼ100%。
45	豚 ^テ シオウイルス性脳脊髄炎 (旧名・豚 ^{エンテ} ロウイルス性脳脊髄炎)	豚、いのしし	ウイルス感染により重篤なものから軽微なものまで神経症状を呈するが、世界的に発生はまれ。
46	豚繁殖・呼吸障害症候群	豚、いのしし	ウイルスにより妊娠豚に繁殖障害、子豚に呼吸障害を起こす。伝播が早く発病率が高い。
47	豚水疱疹 ^{ほうしん}	豚、いのしし	ウイルスにより水疱 ^{ほう} を形成する急性伝染病。口蹄疫との類症鑑別上重要な疾病
48	豚流行性下痢	豚、いのしし	ウイルスにより年齢に無関係に食欲不振、嘔吐、激しい下痢が起こる。特に若齢哺乳豚は脱水が進むと消瘦し衰弱死する。
49	萎縮性鼻炎	豚、いのしし	細菌感染により鼻腔が侵されるので、肺炎になりやすく経済的損失が大きい。全国的に蔓延し罹患率が高い。
50	豚丹毒	豚、いのしし	細菌感染により起こる伝染病。病型は敗血症型、蕁麻疹型、心内膜炎型、関節炎型に分類される。(人獣共通感染症)
51	豚赤痢	豚、いのしし	主として2～5ヶ月齢の肥育豚での発病が多い、細菌による伝染性消化器病。粘血下痢便、軟便、便秘など症状は様々
52	鳥インフルエンザ	鶏、あひる、うずら、七面鳥	A型インフルエンザウイルスによる感染症のうち高病原性及び低病原性鳥インフルエンザウイルス以外のウイルスによるもの。症状は流行株により多様
53	低病原性ニューカッスル病	鶏、あひる、うずら、七面鳥	WOAHの診断基準により高病原性ニューカッスル病ウイルスと判定されたウイルス以外の低病原性ウイルスによるもの(平成23年7月追加)
54	鶏痘	鶏、うずら	ウイルスにより皮膚、粘膜に発痘・痂皮形成を起こす。皮膚型と粘膜型がある。
55	マレック病	鶏、うずら	ウイルスによる悪性リンパ腫 ^{しゅ} 。ウイルスを含むフケで空気伝播する。
56	鶏伝染性気管支炎	鶏	ウイルスによる伝播速度の速い伝染病で、呼吸器症状、産卵障害、下痢が主な症状。鶏群単位で発生し、致死率は低い。
57	鶏伝染性喉頭気管炎	鶏	ウイルスによる急性呼吸器病。喀血等の激しい症状を示し、しばしば窒息死する。
58	伝染性ファブリキウス ^{のう} 囊病	鶏	ウイルスによりファブリキウス囊 ^{のう} (リンパ組織)が侵され他病にかかりやすい。別名ガンボロ病
59	鶏白血病	鶏	ウイルスによる悪性腫瘍性疾患。産卵期前後の5～7ヶ月令に多発する。
60	鳥結核	鶏、あひる、うずら、七面鳥	鳥型結核菌の感染による鳥類の慢性伝染病で、肺のほか脾臓、肝臓、腸などに黄白色の結節病変が認められる。

61	鳥マイコプラズマ症	鶏、七面鳥	マイコプラズマにより慢性の呼吸器障害を起こす。通常は不顕性感染だが、混合感染や環境の悪化により発症、重篤化する。
62	ロイコトゾーン症	鶏	ニワトリヌカカが媒介する原虫が赤血球に寄生して貧血、緑便等を起こす。主に関東以西において初夏～秋に流行
63	あひるウイルス性肝炎	あひる	ウイルスによる水きん類の伝染病。肝臓、腎臓等の腫張が特徴で、ヒナでは死亡率が高い。
64	あひるウイルス性腸炎	あひる	ウイルスによる水きん類の伝染病。腸炎等を起こし死亡率が高い。生き残った鳥は、持続感染鳥となり、ウイルスを排出しつづける。
65	うさぎ 出血病 (旧名・兎ウイルス性出血病)	うさぎ	ウイルスによる家兎、野兎の伝染病。発熱、食欲廃絶、神経症状、鼻出血などの症状がみられる場合もあるが、突然死すること多い。
66	うさぎ 粘液腫 兎 粘液腫	うさぎ	ウイルスによる家兎、野兎の致死性の伝染病。全身の皮下にゼラチン状の腫瘍（粘液腫）を形成する。
67	バロア症	蜜蜂	ミツバチヘギイタダニの寄生による疾病。ダニが蜂児の体液を吸うことにより発育障害を起こすため、成蜂に奇形が見られる。
68	チョーク病	蜜蜂	真菌の感染により蜂児が白くミイラ化しチョーク様となる。
69	アカリンドニ症	蜜蜂	ダニの寄生により起こる疾病。臨床症状に乏しい。
70	ノゼマ症	蜜蜂	微胞子虫が成虫のみに寄生。腹部膨満、飛翔不能、寿命短縮等が見られる。

(注) 対象家畜は全て飼育されているものに限定される

- ※1 レプトスピラ・ボモナ、レプトスピラ・カニコラ、レプトスピラ・イクテロヘモリジア、レプトスピラ・グリポティフォーサ、レプトスピラ・ハージョ、レプトスピラ・オートムナーリス及びレプトスピラ・オーストラリスによるものに限る。
- ※2 サルモネラ・ダブリン、サルモネラ・エンテリテディス、サルモネラ・ティフィムリウム、サルモネラ・コレラエスリス及びサルモネラ 4 ; i ; ーによるものに限る。

(注) 令和2年、家畜伝染病予防法改正により一部の監視伝染病の名称変更